

進化する産地像 ②

大正紡「手技の夢工房」

JICの数あるプースの
中で、いや過去、テキス
タイル展示会という性格
のイベントで、これほど
の人を集めたプースがほ
かにあったのだろうか。大
正紡績の「手技の夢工房」
のプース内は人があふ
れ、入りきれないほどの
盛況ぶり。そんな展示プ
ースが現実に見れたこと
自体が驚きた。近藤健一
取締役営業部長に事前ア
ポイントがあったのは24
人。4時間、5時間待ち
で対応したというから、
その人気のほどがうかが

える。
人をそれほどまじに呼
び寄せた理由には、まず
その展示構成が挙げられ
る。プース入り口には世
界の原料収穫地がひと目
で分かる大型の世界地図

ワタ・糸、それを用いた
織物、ニット、タオルな
どの生地・製品展示だけ
でなく、手機(てばた)、
靴下編み機、ベンガラ染
めの実演を行い、川上か
ら川下までの工程をたど
れるようにした。来場者
は、実際のものづくり現

況見「した」ことだろう。結果として人を魅了する
日本の繊維産業の将来に 展示方法の一例を示し
とつても、それを感じさ した。大正紡績が広めよう
せた意義は大きい。大正 としているオーガニック
紡績にとつて、今回のJ や手摘みのコットンなど
C参加の目的は川中業者 原料として、産地・ア
の技を世界に知らしめる パレル各企業がジャパ
ここであり、顧客である テクノロジーを駆使して
産地・アパレルへの恩返 作り上げた、ほかにはな
しの意味を込めての出展 い逸品をまねされること
で、「普段は表舞台に立 など恐れず、惜しげもな
たない職人たちも脚光を 展示した。「山笑つ」
浴びることができた(近 (千趣会)などの企画で

人を魅了する展示法

タオルを掲げ、その横で
場の再現を興味深さにつ
オーガニックコットンの
見入っていた。
提唱者サリー・フォック
特に今回のJICで多く

日本の匠を広める

見かけた学生にとっては
「日本の匠」に肌で触れ
ることで、日本を再
出展社33社の大正紡績の

藤部長)ことも出展成果
の1つだ。
「手技の夢工房」は、
ももある女優の山口智子
んも訪れたが、JIC開催
初日に駆けつけたことも

前に近藤部長が会場に寄
るよう手紙を書き、早速
いいものを探し求めている
る。



次回秋冬展もひ
と工夫加えて演
出する予定
大正紡を中心と
したものづくり
の技に感動して
いるからこそだ
ろう。山口さん
が日本の匠の
「伝え人」とな
り、その良さが
人々に広まるこ
とも期待され
る。
大正紡績の
3日間の会期中
15件の商談を決め、すべ
ての出展業者が何らかの
成果を得た。人々は丁寧